国際シンポジウムin大阪

世界の取調べの潮流と、「それでも可視化やってない」日本の現状

～周防正行監督・内外専門家と語る取調べの可視化～

日時：2012年4月5日（木）18：00～21：00

会場：大阪弁護士会2階ホール

シンポジウム式次第

（総合司会　我妻 路人 弁護士、渋谷 有可 弁護士）

開会挨拶

藪野 恒明 弁護士（大阪弁護士会会長・取調べの可視化実現大阪本部本部長）

第１部　特別インタビュー

周防 正行監督に聞く「取調べの可視化」

（インタビューワー：森 直也 弁護士）

第２部　内外の専門家と考える取調べの可視化

ＰＡＲＴ１「イギリスにおける取調べ技法」　【資料１・２】

ロジャー・ミルバーン 氏（元 ロンドン警視庁警部）

（解説：秋田 真志 弁護士）

ＰＡＲＴ２「韓国における取調べの可視化の現状」　【資料３】

李 東熹 氏（韓国国立警察大学校教授）

ＰＡＲＴ３「取調べの可視化～各国の状況」　【資料４】

指宿　信 氏（成城大学法学部教授）

第３部「我が国における取調べの可視化の現状」　【資料５・６】

小坂井 久 弁護士×周防 正行監督対談

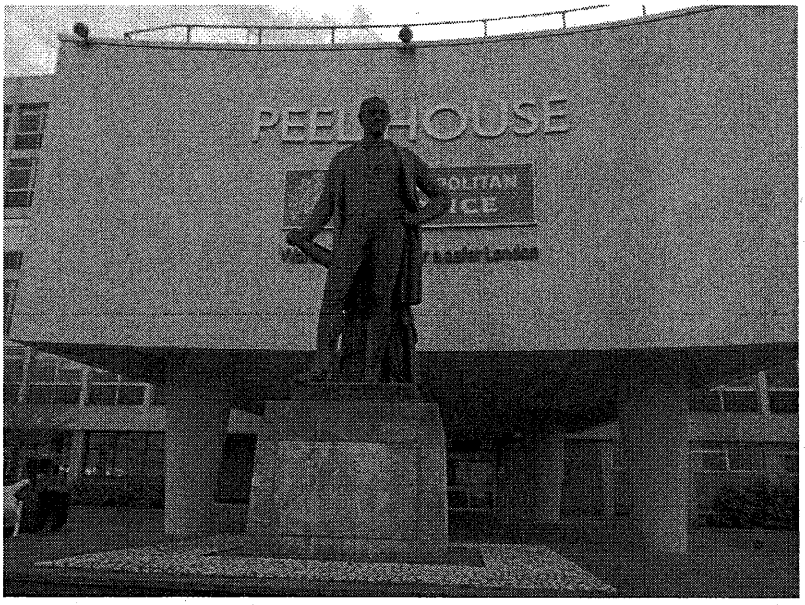
（進行 水谷 恭史 弁護士）

閉会挨拶

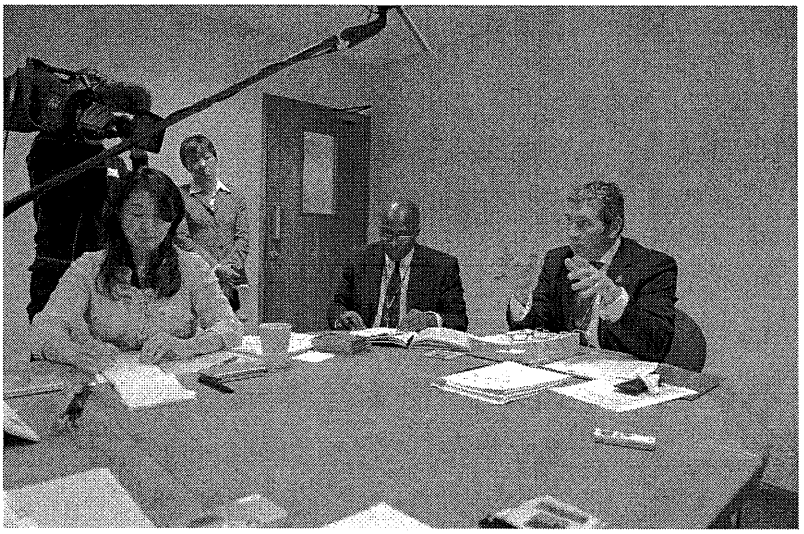
上野　勝 弁護士（平成２３年度取調べの可視化実現大阪本部本部長代行）

主催　日本弁護士連合会

共催　大阪弁護士会　近畿弁護士会連合会　関東弁護士会連合会　中国地方弁護士会連合会
東京弁護士会　第一東京弁護士会　第二東京弁護士会　広島弁護士会



ロンドン・メトロポリタン警察・犯罪アカデミー（警察学校）



Crime Academy Prospectus

CRIME ACADEMY

Excellence in investigative and Forensic Training since 1936

Contents

P: 1 - 6	Criminal Justice Faculty
P: 7 - 9	Counter Terrorism & Disaster Victim Identification Faculty
P: 10 - 24	Forensic Faculty
P: 25 - 30	HOLMES Faculty
P: 31 - 42	Intelligence Faculty
P: 43 - 45	Investigative Faculty
P: 46 - 49	Senior Investigative Faculty
P: 50 - 61	Specialist Faculty

Criminal Justice Faculty 01

Investigative Interviewing for Suspect, Victim & Witness in Serious & Complex Investigations Course	(Code CS296)
Investigative Interviewing of Suspects Course	(Code CS297)
Specialist Interviewing Course	(Code CS307)
Interviewing Advisor's Course	(Code CS249)
Achieving Best Evidence Course Foundation (Practitioner) Course	(Code GP155)
Achieving Best Evidence Advanced (Vulnerable Adult) Course	(Code GP169)
Foundation Disclosure Course	(Code CS234)
Advanced Disclosure Course	(Code CS235)

Investigative Interviewing for Suspect, Victim & Witness in Serious & Complex Investigations Course

Attendance Criteria
This course is for police officers who have completed their probationary period and are engaged in an investigative role. This course is a prerequisite for ICIDP

Course Aim

Investigative Interviewing for Suspect, Victim & Witness in Serious & Complex Investigations Course

Attendance Criteria
This course is for police officers who have completed their probationary period and are engaged in an investigative role. This course is a prerequisite for ICIDP

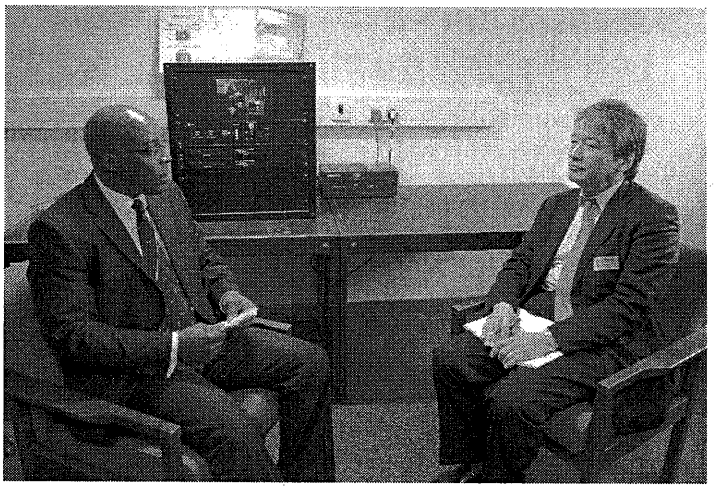
Course Aim
To provide students with the knowledge and understanding to plan, conduct and evaluate interviews with witnesses, including vulnerable adults and children by way of Visually Recorded Statements (ABE); and to provide students with the knowledge and understanding to plan, conduct and evaluate interviews with suspects

Course Objectives
The student will be able to:-

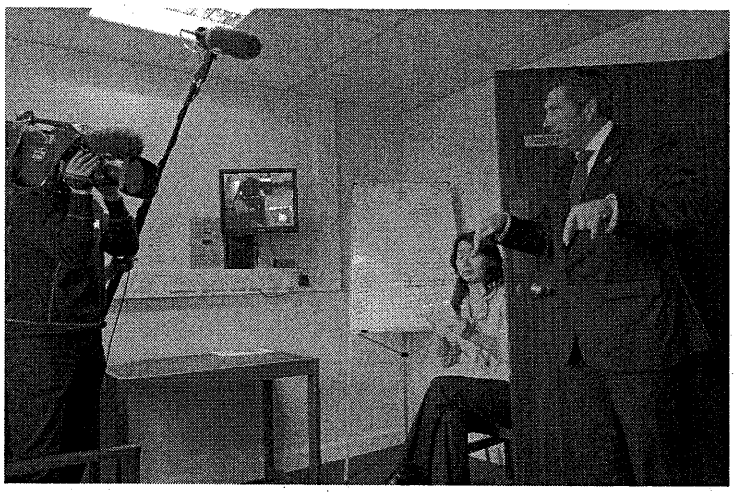
- Explain the investigative mindset and describe the relationship with the PEACE Model
- Outline the CPIA responsibilities of an investigative interviewer
- Introduce students to witness assessment, research and evaluate intelligence and information about the witness, assess the category and current condition of the witness and decide the correct interview approach
- Apply the PEACE Model of investigative interviewing and conduct a Key/Significant interview
- Provide officers with the knowledge and understanding to interview vulnerable adults and children
- Conduct a visually recorded interview using the correct application of the principles laid down in Achieving Best Evidence
- Prepare a detailed interview strategy and plan that includes specific objectives, taking into account the available evidence, antecedent history and current condition of the suspect
- Prepare a pre-interview briefing for a legal advisor in accordance with legislation and case law
- Plan, conduct and evaluate interviews with victims and witnesses for serious or complex investigations
- Plan, conduct and evaluate interviews with suspects for serious or complex investigations

Cost: £ 1,525 **Duration: 10 days**

訓練用模擬取調室（被疑者）

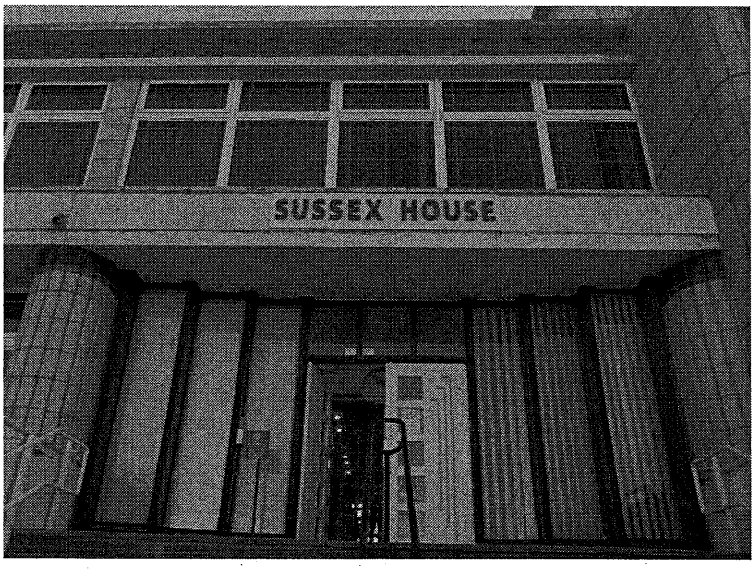


訓練用モニタ室（被疑者）

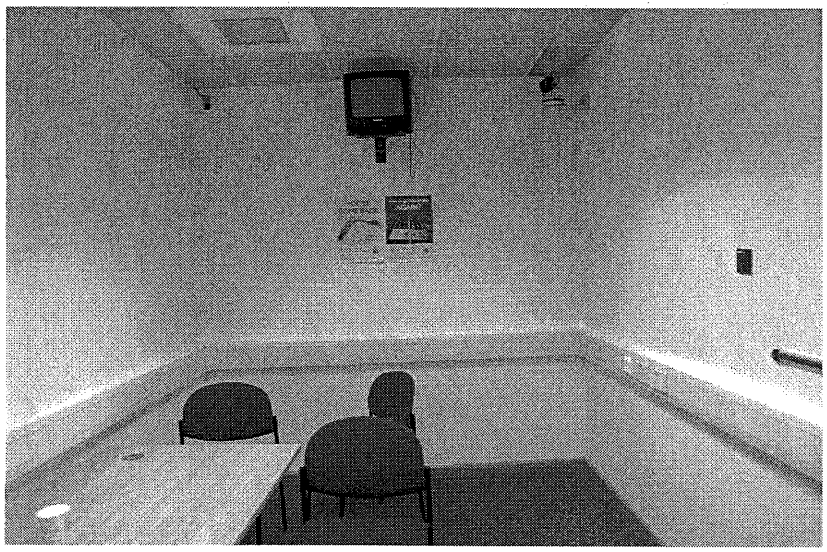


訓練用モニタ室(参考人)

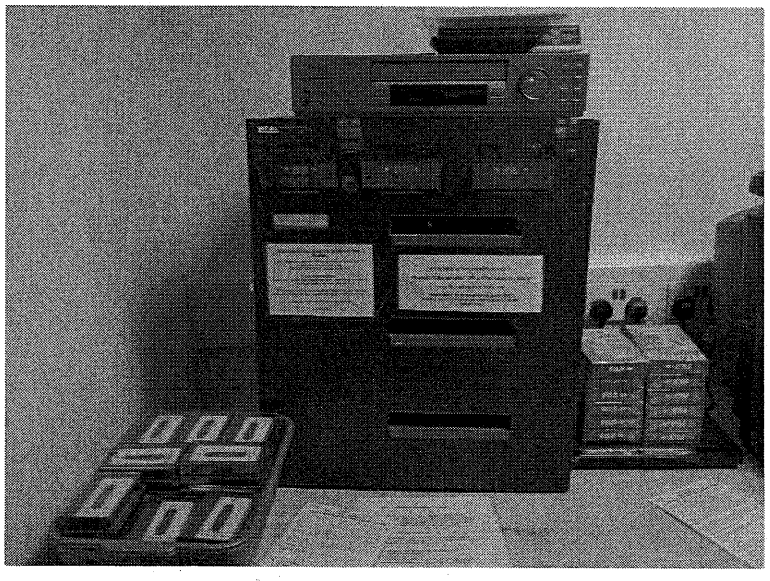
サセックス警察



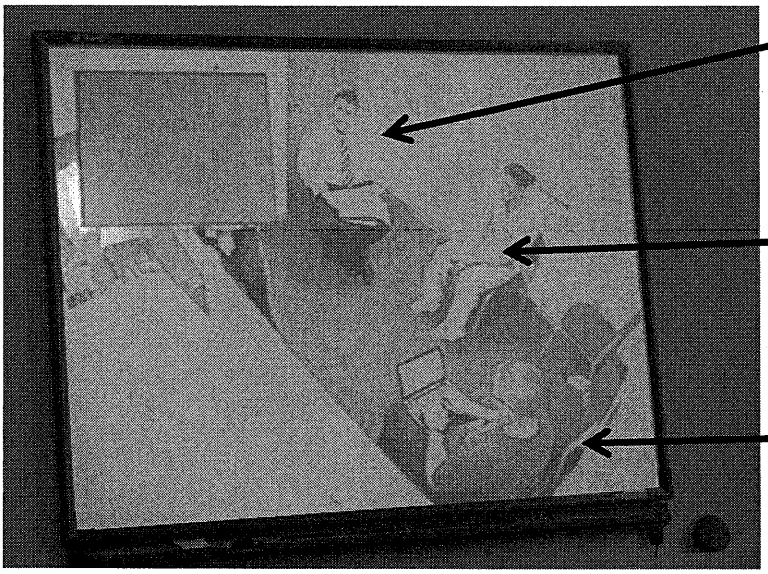
サセックス警察取調室



取調室の録画記録装置



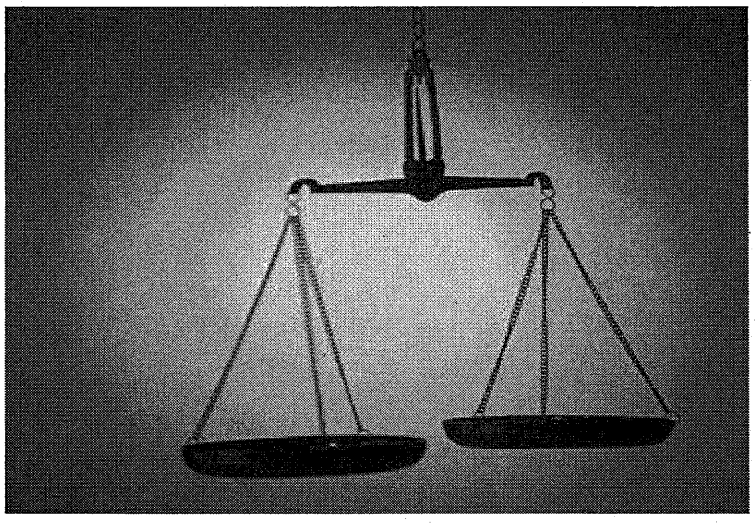
実際の取調べ（サセックス警察）



Roger Milburn Detective Inspector. Retired New Scotland Yard

ロジャー・ミルバーン 元 ロンドン警視庁警部

1



25 Years of Electronic Recording of Interviews
取調べの電子的記録（録音・録画）の25年間

2

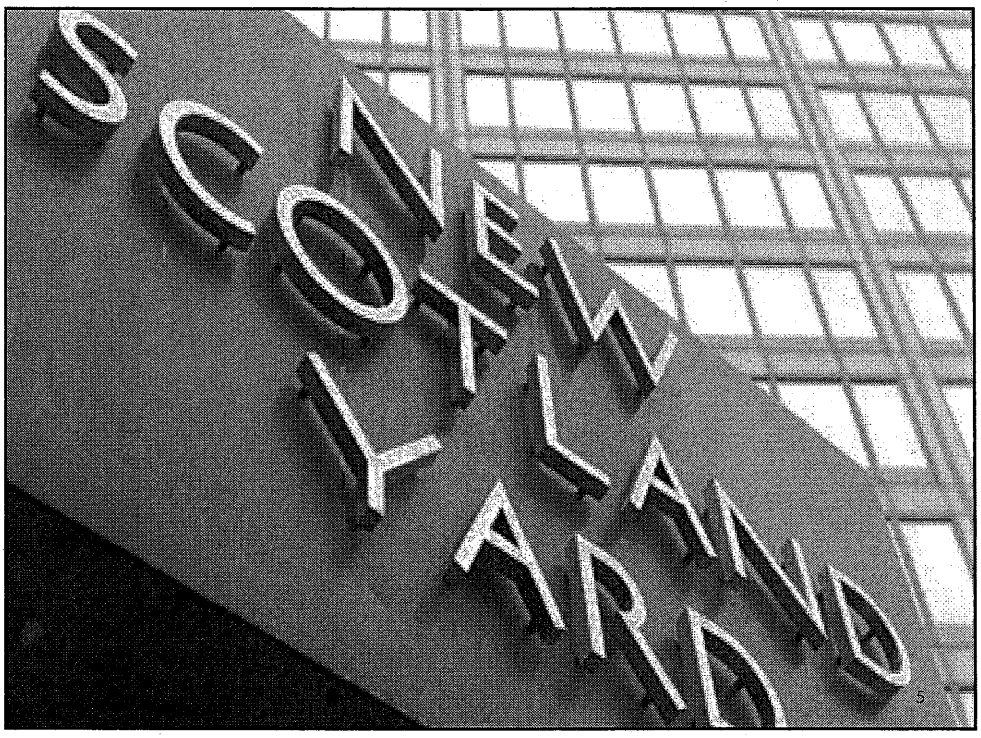
"Once you suspect him then it is up to him to convince you that you are wrong in your assumptions"
「一旦被疑者として疑いをかけられたならば、その疑いが間違っていると尋問者を納得させるのは、被疑者の責任である。」

"You the interrogator know he's done it. He knows you know and he'll tell you."
「あなたは尋問者として、彼がやったと確信している。彼は、あなたにそう思われていることを承知している。だからそのうち口を割るだろう。」

"There is nothing more wearing than the continuous persistence of the voice of the interrogator over a number of hours".
「何時間もの間ずっと尋問者の声を聞かされることほど、(被疑者を)消耗させることはない。」

Police Review 28 November 1975
『ポリスレビュー』1975年11月28日

3


SCOTLAND

PEEL HOUSE

No Solicitor
弁護士もついていません

No Appropriate Adult
適切な大人もついていません

No Intermediary
仲介者もついていません

He Had Learning Difficulties
彼は、学習障害を抱えていました

8

9

The Function of Interviewing is the Search For the Truth Rather Than Justification For a Prosecution.

取調べの役割は、
訴追の正当化ではなく、
真実の探求である。

10

Planning An Interview
取調べの計画

- Pre Plan
- Know As Much as Possible
- Listen to the Answers
- 事前に計画する
- できるだけ多くの情報を得る
- 答えに耳を傾ける

- Establish Rapport
- 信頼関係(ラポール)を構築する

11

Questioning - Four Parts
質問 - 4つのパート

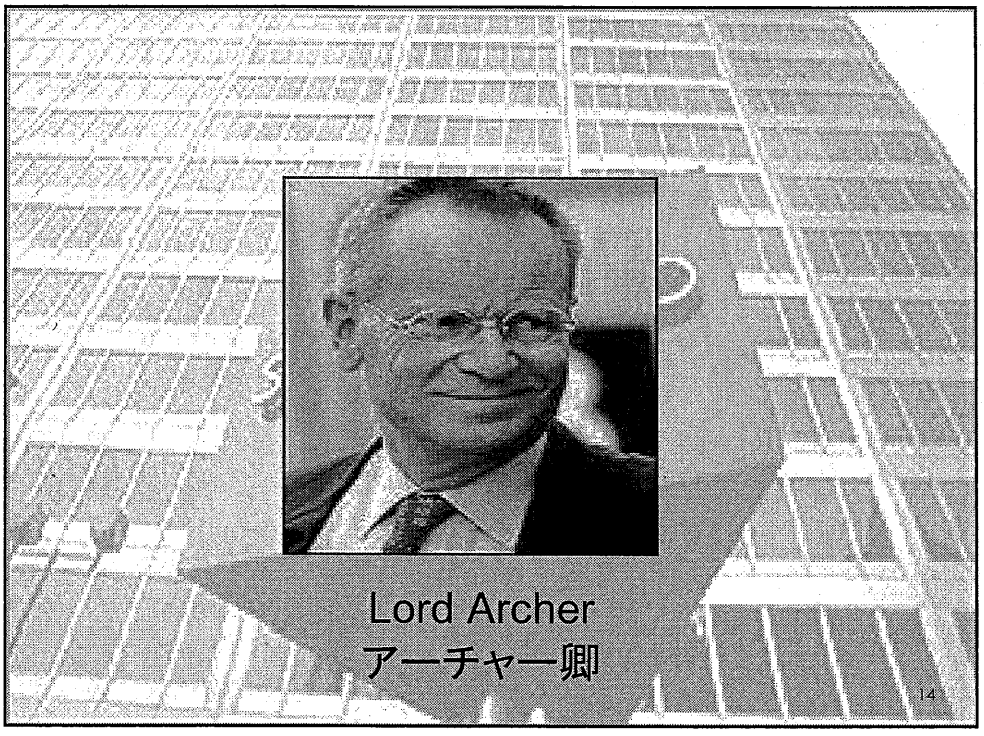
- Ask
- Perceiving the Answer
- Evaluation
- Recording the Response

- 質問を行う
- 答えを五感で受けとめる
- 評価する
- 応答を録音する

12

Active Listening
積極的に耳を傾けること

13



My Witness
私の証人
15

POLICE
A152 SUN

The Tape Recording of Suspect Interviews

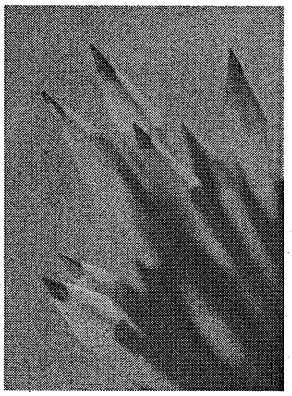
被疑者取調べの テープ録音

17

Police "Enthusiastic"

警察は「熱心」

18



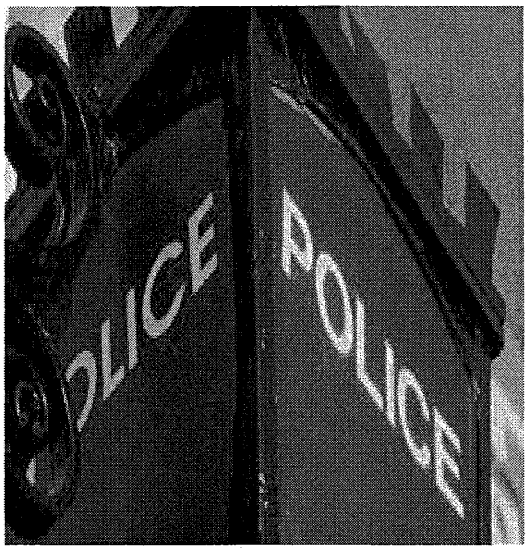
19

Judge Jean Graham Hall
ジーン・グレアム・ホール裁判官

"Tape Recording is an Important Aid to Justice & has come to Stay. 27th June 1986"

「テープ録音は、正義を助ける重要なものであり、すでに定着している。1986年6月27日」

20



21

Police & Criminal Evidence Act 1984. s.76 Confessions

1984年警察・刑事証拠法 セクション76 自白

22

PEACE INTERVIEW TRAINING
PEACEアプローチによる取調べトレーニング

- Preparation – Planning
- Engage - Explain
- Account
- Closure
- Evaluate

- 準備 – 計画
- 関与 – 説明
- 弁明
- 終結
- 評価

PEACE

23

"Presumption is of Guilt
Rather than, as it Should be of
Innocence"

「推定は、本来そうあるべき無罪の
推定ではなく、有罪の推定である」

24

Principles of Investigative Interviewing
取調べの原則

Accurate & Reliable Accounts
正確で信頼できる供述

Act Fairly
公正に行動する

Approach with an Investigative Mindset
捜査の観点から臨む

Investigators Have a Responsibility to put Questions
取調官は、質問する責任を負う

25

Article 3:
第3条:

No one shall be subjected to Torture or to Inhuman or Degrading Treatment or Punishment

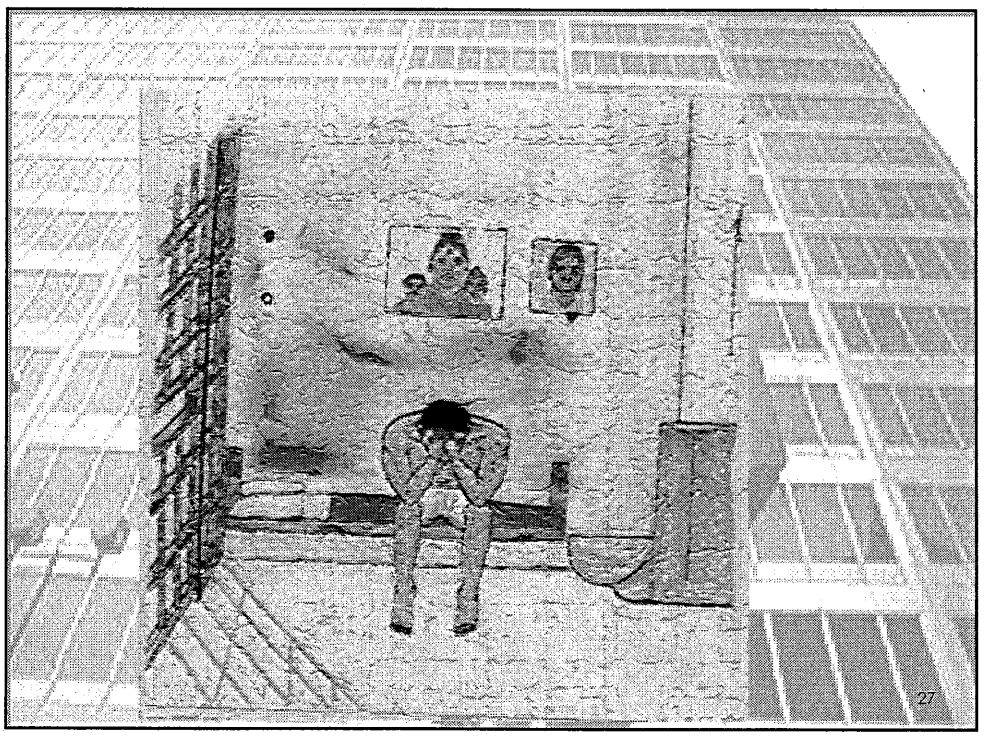
いかなる者も、拷問または非人道的もしくは屈辱的な処遇もしくは処罰を受けてはならない

Article 6:
第6条:

Right to a Fair Trial

公正な裁判を受ける権利

26



Good Cop Beats Bad Cop at Getting a Confession

自白を得るにあたっては、
良い警官が悪い警官に勝る

28

The No Comment Interview
ノーコメントの取調べ

Lord Archer
アーチャー卿

30

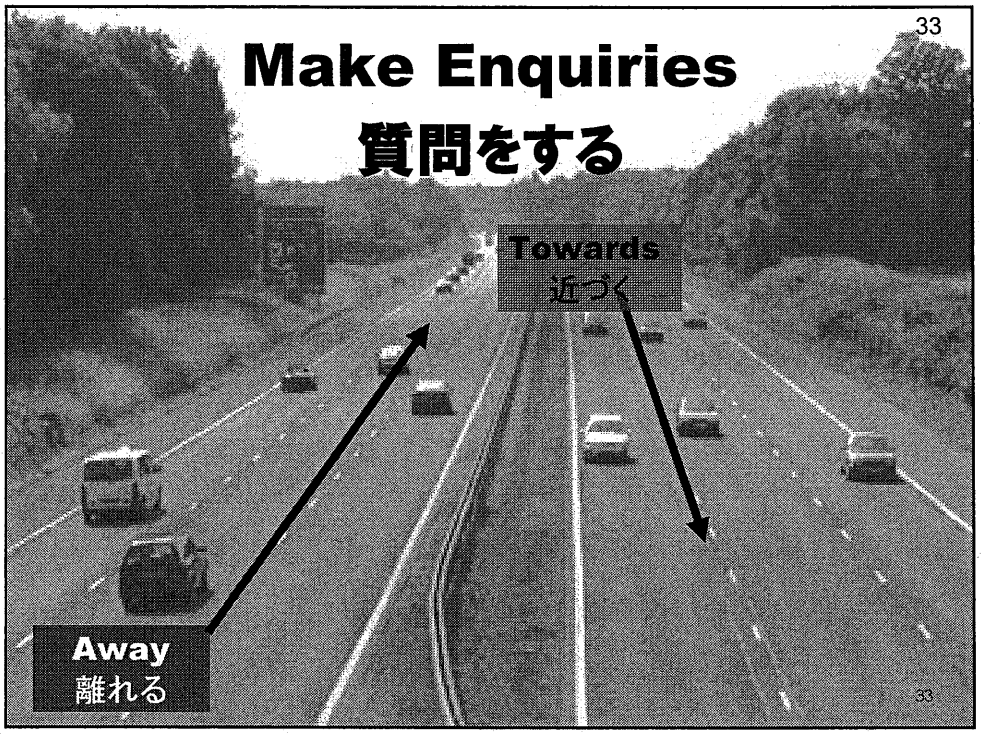
31

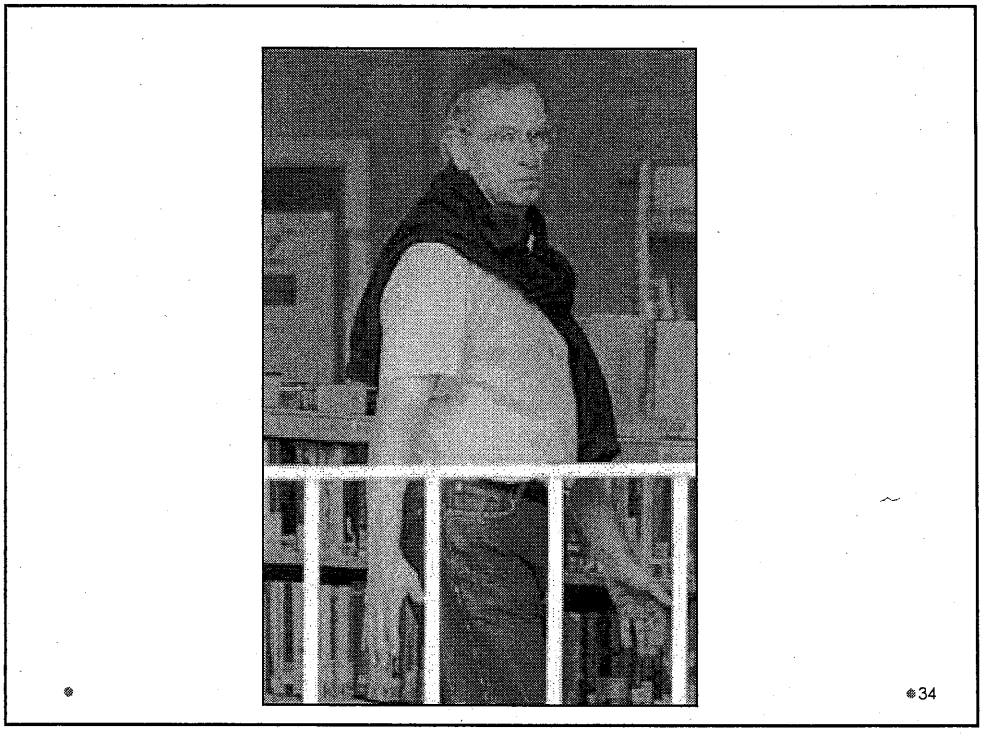
Mr. Justice Potts
ポッツ裁判官は

Told Lord Archer:
Convicted on “Clear Evidence”

アーチャー卿にこう告げた:
「明らかな証拠」に基づき
有罪判決が下されたと。

32


33
Make Enquiries
質問をする
Towards
近づく
Away
離れる
33


34

Recorded Evidence Prevents Police Doctoring Statements or Forcing Confessions Under Duress.

録音・録画された証拠は、警察による供述調書の改竄や自白の強要を防ぐ。

Thank You
ご清聴ありがとうございました。

オブデューロ　コンサルタント会社

ロジャー・S・ミルバーン　犯罪調査・分析トレーニング
代表　訴訟管理
電話：+447901731117
Eメール：obduroltd@gmail.com　裁判&刑事訴訟（公表）手続きの再調査

韓国における取調べ可視化の現状

2011年4月5日　於、大阪弁護士会館

韓国・国立警察大学　教授　李東熹(リ、ドンヒ)

Prof　LEE, DONG-HEE

－目次－

録音・録画制度の導入経緯と制度概要

韓国における被疑者取調べの適正化

運用状況

最近の立法動向

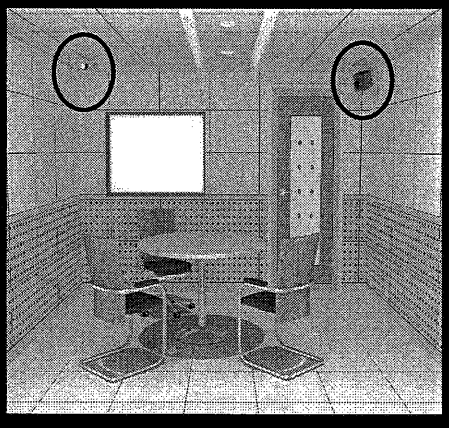
1. 録音・録画制度の導入経緯と制度概要

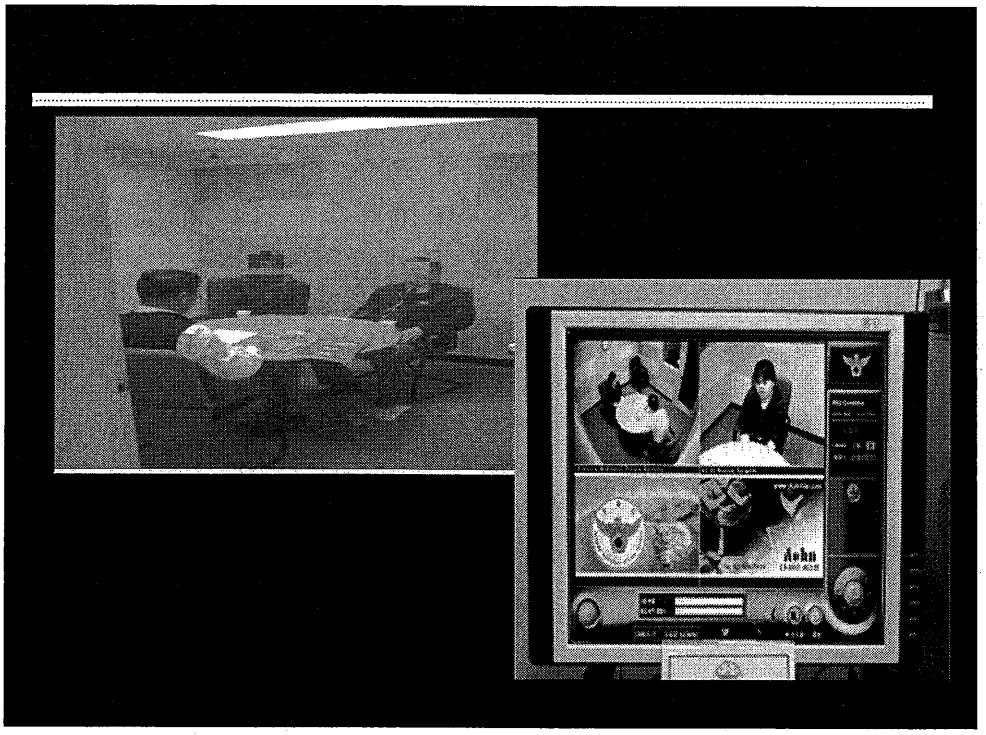
- ❖ 試験実施
  - ■ **検察の試験実施**：2005年、全国14ヶ所の検察庁に41個
  - ■ **警察の試験実施**：2006年、ソウル・ヤンチョン警察署
- ❖ 制度導入の背景
  - ■ **司法改革**における公判中心主義の徹底化の動き→**調書裁判の克服**
  - ■ 検面調書の証拠能力を否定する立法動向に対する検察側の代案
- ❖ **司法改革・刑事訴訟法改正による録音・録画制度の立法化**
  - ■ **2007年6月1日、刑事訴訟法改正**
  - ■ **2008年1月1日、施行**

- ❖ 制度の概要
  - ■ **被疑者取調べの映像録画**
    - ● 捜査機関の**裁量**による映像録画
  - ■ **参考人取調べの映像録画**
    - ● 参考人の**同意**による映像録画
  - ■ **映像録画の方法**
    - ● 取調べの開始から終了までの全過程を録音・録画
    - ● 映像録画物の製作：封印、書名捺印

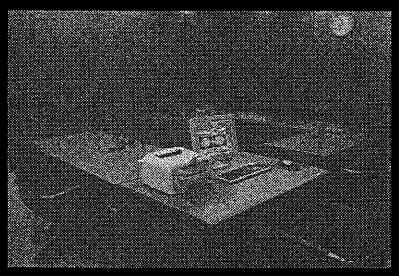
- 映像録画物の証拠としての活用
  - 本証・実質証拠としての使用は、禁止
    - 検察官作成の被疑者訊問調書の「成立真正」を認めるため、補完証拠として使用
      - 司法警察作成の被疑者訊問調書は、被告人の「内容の認定」がなければ、証拠能力が認めない。→事実上、証拠能力が無い
    - 司法警察・検察官作成の参考人陳述調書の「成立真正」を認めるため、補完証拠として使用
  - 弾劾証拠としての使用も制限
    - 被告人の記憶を喚起させるため、本人に再生して視聴させることのみ

映像録画室　(警察)

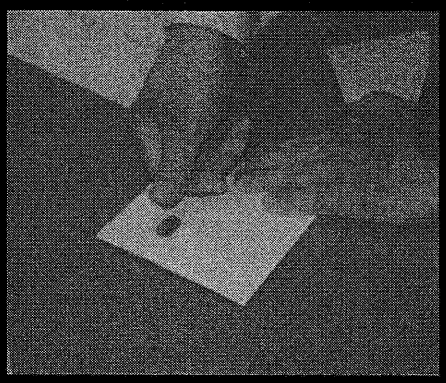


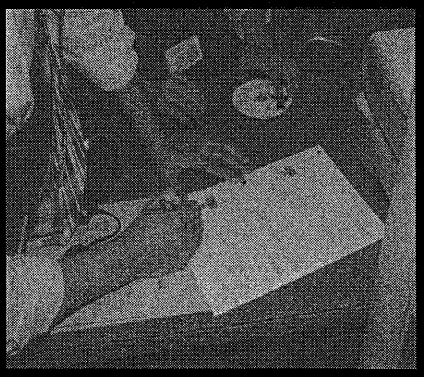


映像録画室　(検察)



映像録画物の製作



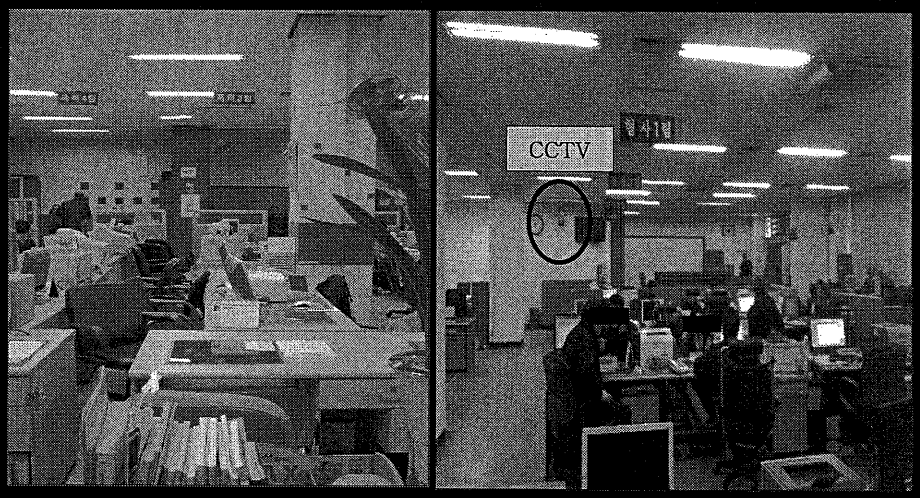


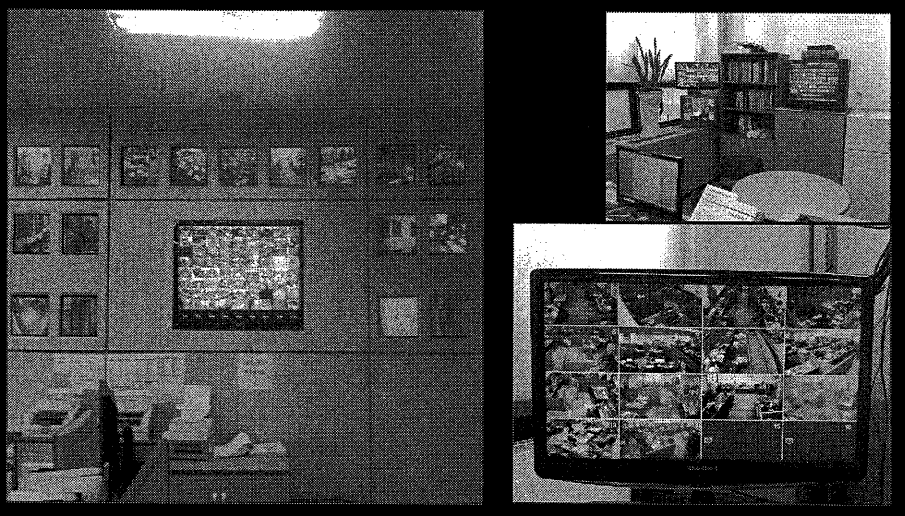
2. 韓国における被疑者取調べの適正化

❖ 取調べの場所

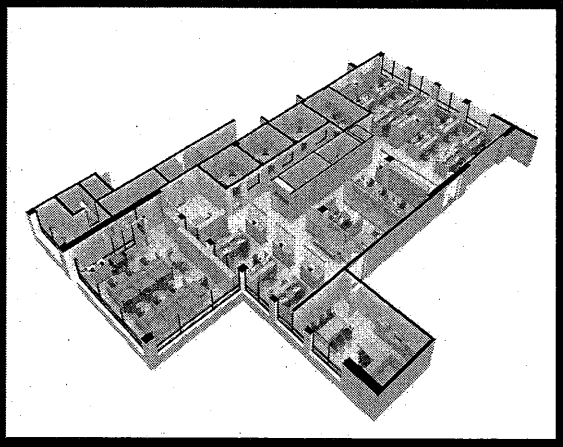
- **警察：事務室併用型の取調室　→　開放型**
  - 一般人・新聞記者などが日常出入りしている場所
  - **すべての捜査事務室には、CCTVが設置されている**
    - **録画映像は、約3ヶ月間保存**
- **検察：検察事務室**
  - 検察職員以外には、出入りができない状態で、被告人取調べが行われている。

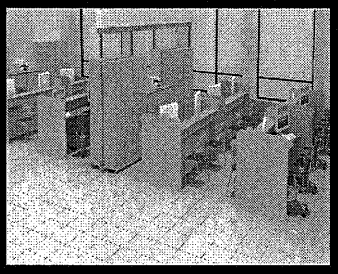
取調室　(実景)

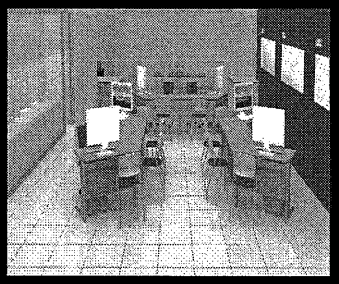




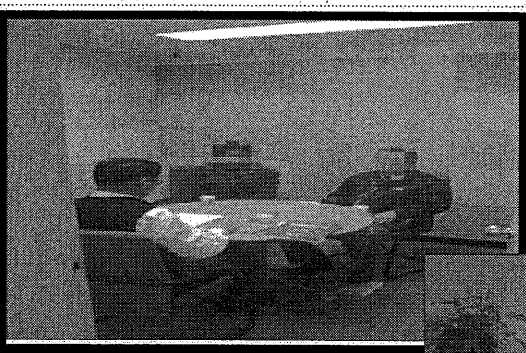
捜査課事務室（取調室）の施設整備



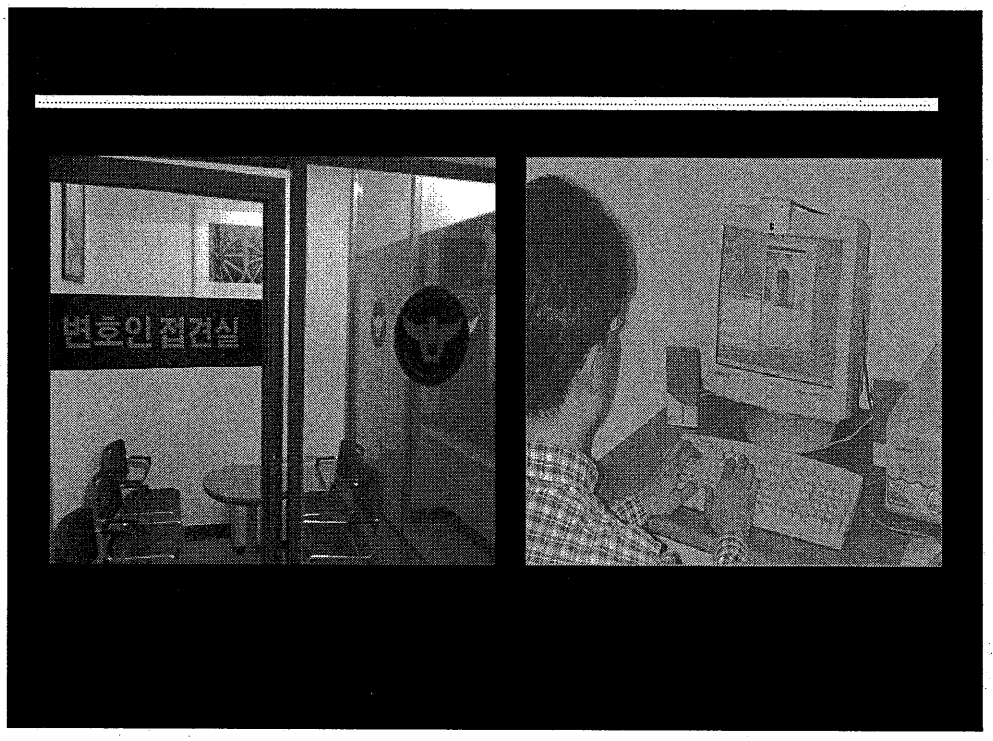




映像録画室 vs 一般取調室



- ❖ 調書の作成方法
  - ■ 問答式の調書
- ❖ 警察留置場での処遇
  - ■ 接見交通権の保障
    - ● 弁護人との接見：如何なる名目でも制限はできない。(判例)
      - ▪ 小部屋形態の弁護人接見室での面会 (立会人なし)
    - ● 弁護人以外の者との接見
      - ▪ インターネットによる「画像面会制度」の運用 (2001年以後)
  - ■ 環境整備
    - ● トイレ、床暖房、透明なアクリル・ドアなど
  - ■ 最近の動向
    - ● 留置場の管理を捜査課から警務課に移転する方針(関連法令の改正中)



2007年の刑訴法改正と取調べ適正化

❖ 2007年の刑事訴訟法改正による適正化

- ■ 陳述拒否権の告知内容の具体化
  - ● 告知を受けた事実を被疑者が調書に「自筆」で記入する。
- ■ 映像録画制度の明文化
- ■ 弁護人立会権の明文化
  - ● 大法院の2003年11月11日決定と憲法裁判所の2004年9月23日決定
    → 憲法上の「弁護人の助力を受ける権利」として弁護人立会権を肯定
  - ● 警察は、1999年6月から、内部指針により自ら実施
- ■ 信頼関係人の同席
  - ● 外国人、女性、未成年者などの社会的弱者の被疑者の場合、申請があれば、信頼関係にある者を同席させることができる。

- ■ 取調べ過程の書面記録制度の導入
  - ● 取調べの開始・終了時刻、休憩時間、その他の取調べの客観的な状況を書面に記録しなければならない。→「捜査過程確認書」
- ■ 被疑者訊問調書の修正箇所の保存
  - ● 被疑者が調書を閲覧した後、増減・変更の修正を求めた箇所は、修正した内容の部分に署名を受けて残すことを義務化

3. 映像録画制度の実施状況

(単位：人)

区分	2006	2007	2008	2009	2010
警察	948	17, 013	89, 338	73, 371	38, 159
検察	5, 723	22, 016	27, 769	93, 422	—

1) 統計は、警察・検察の内部資料による。

❖ 弁護人立会の状況

区分	2008	2009	2010
警察	988	941	1, 065
検察	524	962	1, 072

1) 「財産犯罪の割合が多い」という特徴を見せている。

4. 最近の関連立法の動向

- ❖ 2010年、国会・司法制度改革特別委員会
  - ■ 映像録画制度の一部改正案　(議員立法案)
    - ● 映像録画の要求権を認める案
    - ● 映像録画物の複製本を要求する権利を認める案
- ❖ 2010年12月、法務部の刑事訴訟法改正案
  - ■ 映像録画の要求権を新設する案を立法予告
  - ■ 国会審議の状況
    - ● 刑事訴訟法改正案の他の立法案(映像録画物の実質証拠化、参考人勾引制度の新設、刑事免責の導入など)に対する反対意見が強い。
    - ● 2012年4月11日、国会議員総選挙の実施後、改めて審議される見込み

Korea National Police University
Prof. Lee Dong-Hee

取調べの“可視化”
～各国の状況を解剖する～
Anatomy of Visual Recording for Suspect Interview

日弁連可視化国際シンポジウム
In Osaka
2012年4月5日
指宿 信 ・ 成城大学法学部

Makoto IBUSUKI©2012

Agenda

- はじめに
- “可視化”積極論と消極論
- “可視化”の概念図と世界の状況
- “可視化”をめぐる法的枠組み
  - 可視化義務づけのアプローチ
  - 可視化の法的帰結（証拠禁止ルール）
- “可視化”をめぐるアーキテクチャー
  1. 記録の方法（カメラのアングル、フォーカス、台数）
  2. 記録の対象（被疑者、参考人、被害者・・・）
  3. 記録の利用（補助証拠vs実質証拠）
  4. 取り調べ技法（自白獲得型vs情報収集型）
  5. 可視化のインパクト（カメラ・アングルと偏見）
- おわりに

“可視化”積極論と消極論

可視化積極論

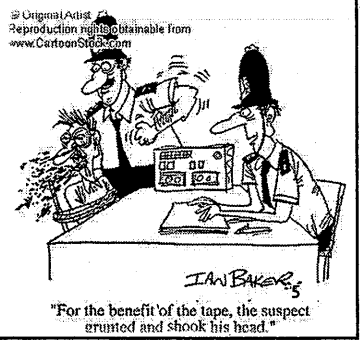
- 1）記録の正確性
- 2）誤解の回避
- 3）権限濫用に対する保護
- 4）虚偽の訴えを抑止
- 5）供述調書の許容性（任意性）、信用性確保
- 6）有罪答弁の増加
- 7）裁判時間の短縮

可視化消極論

- 1）公判廷での被告人に対する偏見
- 2）不完全な部分録画に対する危惧
- 3）コスト
- 4）改ざん編集の危険
- 5）裁判の長期化
- 6）自白獲得の困難さ
- 7）警察に対する公衆からの

イメージの悪化

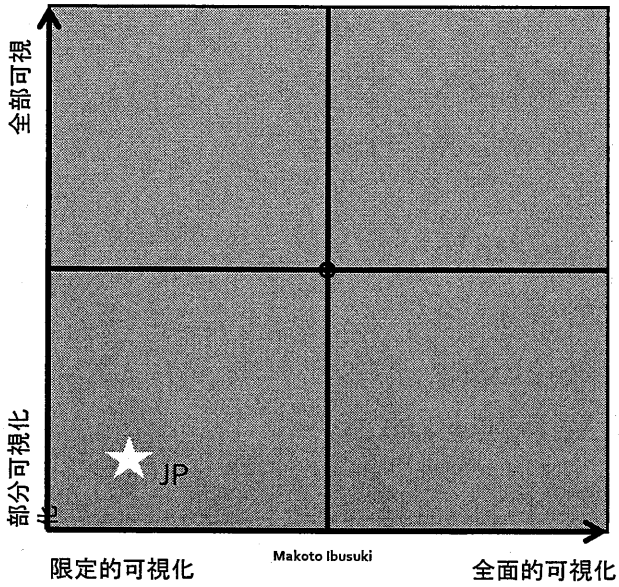
Makoto Ibusuki



“可視化”の概念図と世界の状況

可視化の概念マップ　I

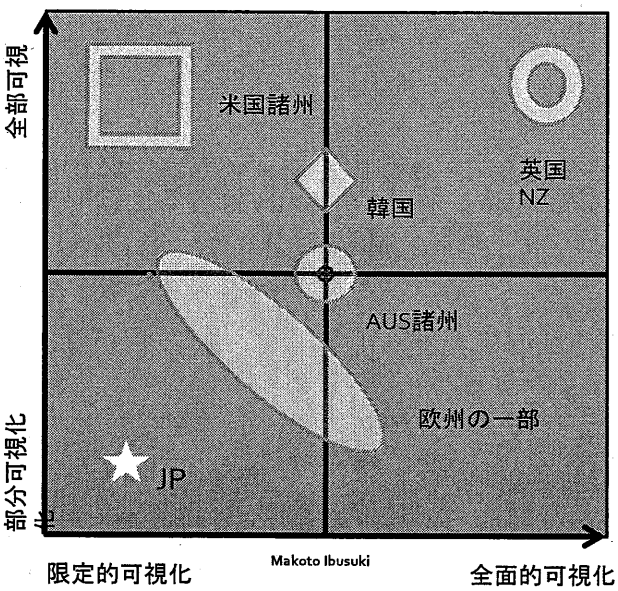
Y軸は取り調べ中に記録する部分を示す



X軸は録画対象事件の広範性を示す　7

可視化の概念マップ　II

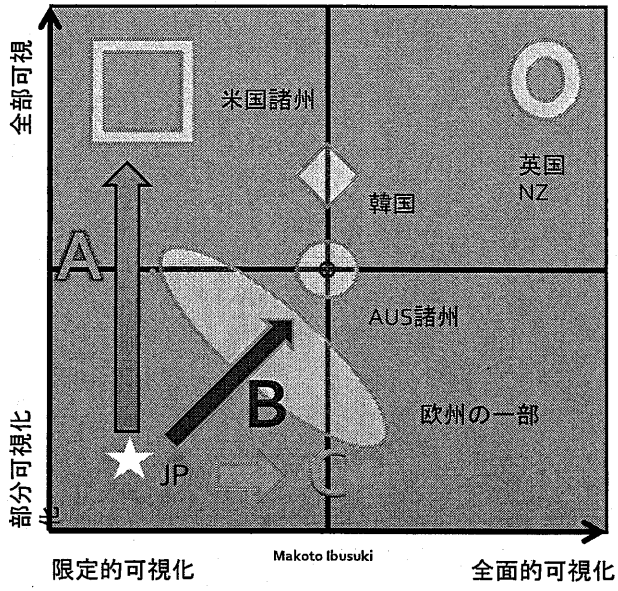
Y軸は取り調べ中に記録する部分を示す



X軸は録画対象事件の広範性を示す　8

可視化の概念マップ　Ⅲ

Y軸は取り調べ中に記録する部分を示す



X軸は録画対象事件の広範性を示す　9

“可視化”をめぐる法的枠組み

可視化義務づけのアプローチ

1）手続タイプ
- 日弁連から提案された刑事訴訟法改正案は、198条の2を追加して「取調の開始から終了までの全過程を、録画又は録音しなければならない」とする（2003年12月）
  * 日弁連案「取調べ可視化のための立法案」
    http://www.nichibenren.or.jp/ja/special_theme/data/kashika_nippouan.pdf
- 民主党から参議院に提出された刑事訴訟法改正案は、「被疑者の供述及び取調への状況のすべてについて、その映像及び音声を記録媒体に記録しなければならない」（同）とする（2007年12月）
  ** 民主党案 http://www.dpj.or.jp/news/dpjnews.cgi?publication=pp&murl=a2315

2）証拠法タイプ
- 日弁連案も民主党案も、録音録画を322条第1項において自白の証拠能力付与の条件とする改正内容になっている。両案共に録音録画の有無のみならず、その方法について違反があった場合も証拠能力を否定する

3）権利論タイプ
- スロヴォキン論文の示唆（適正手続、証拠保全、反対尋問権）
- 憲法31条
- 憲法37条
- 憲法38条

海外法制

国名等	証拠法タイプ	手続法タイプ
イギリス		警察刑事証拠法実務規範E、F
ニュージーランド	2006年証拠法	
オーストラリア	ヴィクトリア州　刑事法464のH条 西オーストラリア州　刑事法570のD条2．2 タスマニア州　刑法8条 ニューサウスウェールズ州　刑事手続法281条 クィーンズランド州　犯罪法23V条	
合衆国	不任意推定（DC、IL、テキサス） 任意性認定＝免責（モンタナ） 証拠排除法則不適用（ミズーリ、NM）	権利告知以後（IL、モンタナ、NM、オレゴン） 単純義務（メイン） 陪審説示（ネブラスカ、NC、オレゴン、テキサス、ウィスコンシン）
韓国	312条（調書の証拠能力）	244条の2（被疑者供述の録画）

12

可視化の法的帰結(証拠禁止ルール)

- イギリス:警察刑事証拠法78条
- 豪州:判例法
- カナダ:判例法
- 米国:制定法
  - ✓ ニューメキシコ州:注意規程「いかなる司法手続き上も、・・・証拠を排除する目的で解釈されることがあってはならない」
  - ✓ ネブラスカ州:注意規程・・・派生的証拠に排除法則は適用されない
  - ✓ テキサス州:免責条項・・・贓物、凶器、状況等への不適用

13

豪州判例

- 2004年ケリー事件連邦最高裁判決
  - 取調室外での移送中の発言は「自認供述」として録音録画されていない場合でも許容される、とする
- 2005年ニコルズ事件連邦最高裁判決
  - "取調べ"の自然な意味は、「重大犯罪」の容疑で被疑者から供述を引き出す目的、特定の日においてなされた警察と被疑者とのあいだでの議論の全体を指す、とする
- 2008年マームッド事件連邦最高裁判決
  - "取調べ"の自然な意味は、「重大犯罪」の容疑で被疑者から供述を引き出す目的で、特定の日においてなされた警察と被疑者とのあいだでの議論の全体を指す、とする

14

カナダ判例

- 2000年 オイクル事件最高裁判決
- 事案の概要：8件の放火事件。モーテルの一室でのポリグラフ・テスト。録音。その後、取調へ。録音録画なし。自白。供述調書作成。翌朝再度供述。録画。引き当たり。
- 裁判の経緯：一審＝調書、録画ビデオの証拠能力を認めて有罪。ノヴァ・スコシア州上訴裁判所が自白を排除、無罪判決。検察上告。
- 判決要旨：6対1。自白の任意性について、自白の信頼性だけに焦点を当てず、「全体の状況」から判断する。合理的疑いは生じない。控訴審判決破棄、一審有罪評決は有効。→取調べ録画義務について明示せず、重要性を指摘するに止まる。「

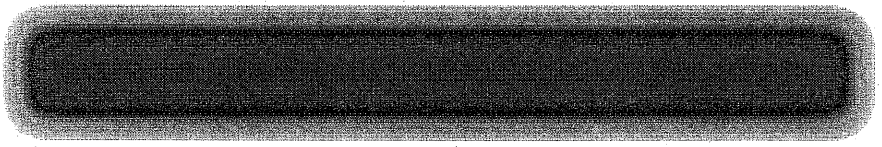
15

“可視化”をめぐるアーキテクチャー

1. 記録の方法（カメラのアングル、フォーカス、台数）
2. 記録の対象（被疑者、参考人、被害者・・・）
3. 記録の利用（補助証拠vs実質証拠）
4. 取調べ技法（自白獲得型vs情報収集型）
5. 可視化のインパクト（カメラ・アングルと偏見）

録画システムの多様な要素

- ①録画方法(アングル、録画時間、メディア、カメラ台数)
- ②録画条件(公式取調べ、読みきかせ記録、自白録画、全部録画、同意、免責条件)
- ③録画環境(隠しカメラ、ポジション、調度)
- ④参加者(取調官<単数・複数>、立会人<弁護人、保護者、通訳者、ほか>)
- ⑤録画対象(犯罪類型、対象者)



1. 記録の方法

アーキテクチャー	録音	録画
メディア	オープンリールテープ、カセットテープ、ICレコーダー、HD	VHSビデオ、CDビデオ、DVD、HD
カメラ台数	―――――	1台、2台、3台
フレーム	―――――	シングル、分割、ピクチャー・イン・ピクチャー
アングル	―――――	正面、横、斜め、全体(横、天井)
装置の位置	ブラインド、オープン	ブラインド、オープン
取調べ部屋	通常・防音・観察室・児童用	通常・防音・観察室・児童用
可動装置	あり・なし	あり・なし
複写機能	あり・なし	あり・なし
モニター機能	あり・なし	あり・なし
検索機能	あり・なし	あり・なし

2. 記録の対象

- 取調べの多様性
- 被害者
- 参考人（証人）
- 被疑者

3. 記録の利用

- 補助証拠（自白の任意性、信用性立証のため）
- 実質証拠（罪体の証明のため）
- 量刑証拠（刑の重さを決めるため）

4. 取調べ技法

- 1) CA (confession acquiring) type（自白追求型）
  - 警察の内部マニュアル、取調技術教本
  - 違法認定判決（例：大阪東署事件）
- 2) IG (information gathering) type（情報収集型）
  - PEACEテクニック (Planning & Preparation, Engaging & Explaining, Obtain an Account) since 1992
    1. ラポールの構築
    2. 容疑の説明
    3. 真実の重要性説明
    4. 被疑者の言い分
    5. 傾聴
    6. 矛盾の指摘
  - 長所： 無実の者にはストレスが低く、有実の者には高い

21

5. 可視化のインパクト・・・
カメラ・パースペクティブ・バイアス(CPB)

Table 1 Lassiter's (1986) が検討したカメラ・アングル

名称	撮影方法
①SF (suspect-focus)	被疑者のみにカメラを向けた撮影手法
②DF (defective-focus)	取調官のみにカメラを向けた撮影手法
③EF (equal-focus)	①②の中間形態。被疑者と取調官の両方を撮影する方法

22

ラシターらによる知見

- 自白の任意性判断にカメラのアングルは影響を与える(CPB)ことを実証
- 被疑者正面(SF)だけを撮影した映像を見た場合、任意性判断は高く評価される
- 取調官単体(DF)を撮影した場合は任意性は低く評価される

23

CPB効果の頑健性

- 複数の実験条件で実施して、CPB効果を検証
  - 複数の被験者で議論させても結果は変わらない
  - CPBの発生について警告しても結果は変わらない
  - 自白の内容に注意を払うよう指示しても変わらない
  - 実際の事件に基づく映像でも変わらない
  - 法律専門家(裁判官)でも変わらない
  - 法執行官でも変わらない
- ラッシター “取調べ録画の導入は、自白の強要や虚偽自白の問題を解決するよりも、問題を難しくする側面がある”

24

おわりに

- 可視化の目的と利用法を明確にする
- 刑事手続全体における改革との連動させる
- 起訴前弁護（捜査弁護）の重要性が増す
- 「謝罪」と「修復」、「更生」と「治療」の機能を公式の手続に創造する

参考文献

- 指宿信著『被疑者取り調べの録画制度』（商事法務、2010年）
- 日本弁護士連合会編集協力・指宿信編『取調べの可視化へ！』（日本評論社、2011年）
- 「特集・日本の有罪率99．9%の何故？」SIGHT46号（'10年12月24日発売号、ロッキング・オン社）
- 指宿信「取調べの"高度化"をめぐって」法律時報83巻8＝9号（2011）
- 指宿信「取調べ録画制度における映像インパクトと手続法的抑制策の検討」判例時報1995号（2008.4）3～11頁
- Daniel Lassiter Ed., Police Interrogations and False Confessions: Current Research, Practice, and Policy Recommendations(2010)
- 若林、指宿、小松、サトウ「録画された自白：日本独自の取調べ録画形式が裁判員の判断に与える影響」法と心理12巻1号（2012）＊掲載予定・査読済み

26

2012年4月5日
日本弁護士連合会
国際シンポジウム

取調べの可視化
（日本の経緯・現状）

取調べの可視化実現本部

弁護士　小坂井　久

1

2

可視化はなぜ必要か？

↓

◎取調べの適正化

◎全面的検証可能性

・えん罪の防止に資する

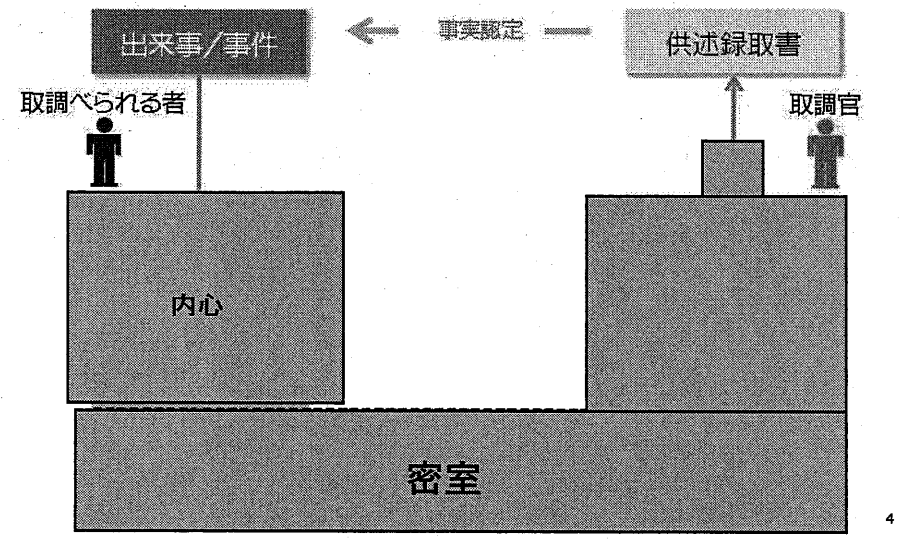
★「より適正、より公正、より正確」

＝司法の尊厳

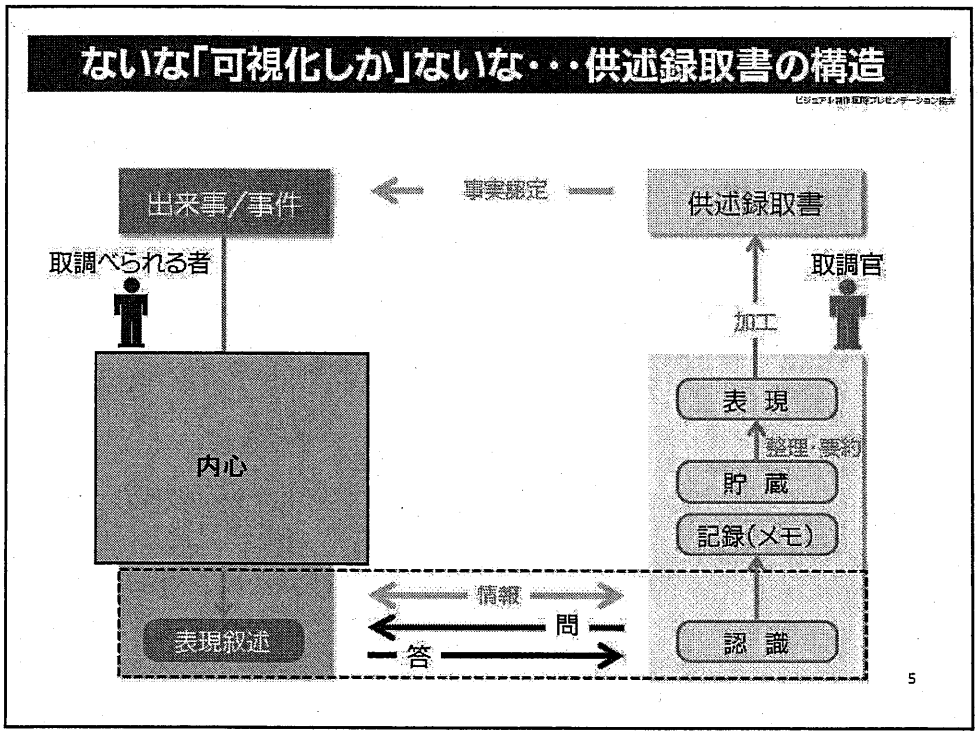
（・・・・たとえ、「敵に塩を送る制度」であったとしても）

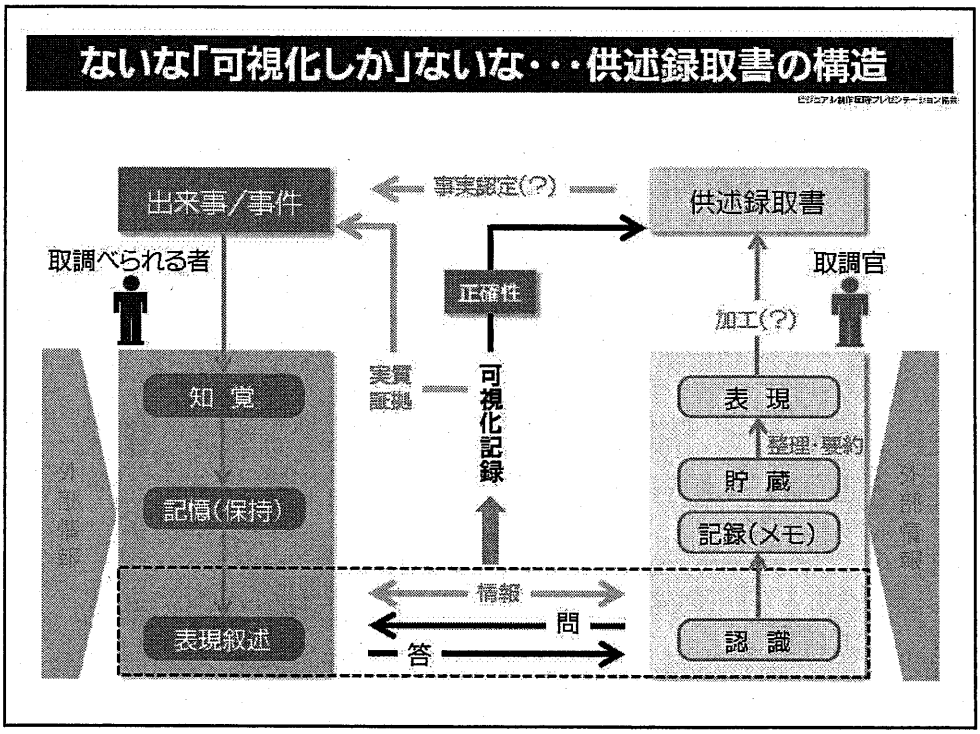
3

ないな「可視化しか」ないな・・・供述録取書の構造



4


ないな「可視化しか」ないな・・・供述録取書の構造
出来事／事件
事実認定
供述録取書
取調べられる者
取調官
加工
内心
表 現
整理・要約
貯 蔵
記録(メモ)
情報
問
答
表現叙述
認 識
5


ないな「可視化しか」ないな・・・供述録取書の構造
出来事／事件
事実認定(?)
供述録取書
取調べられる者
正確性
取調官
加工(?)
実質証拠
可視化記録
知 覚
表 現
整理・要約
記憶(保持)
貯 蔵
記録(メモ)
情報
問
答
表現叙述
認 識

死刑四大えん罪事件〈80年代〉

- 食事抜き、暴行を伴う取調べ　自白　死刑判決
- 逮捕から34年6か月後に再審無罪（免田事件）
- （1948年～1983年）

- 2か月間、暴行・脅迫を伴う取調べ　自白　死刑判決
- 逮捕から33年11か月後に再審無罪（財田川事件）
- （1950年～1984年）

- 自白・否認を繰り返す厳しい取調べ　自白　死刑判決
- 逮捕から２８年７か月後に再審無罪（松山事件）
- （1955年～1984年）

- 拷問を伴う厳しい取調べ　自白　死刑判決
- 逮捕から34年8か月後に再審無罪（島田事件）（1954年～1989年）

7

なぜ可視化は実現してこなかった？

- 80年代前半　衝撃的な死刑再審無罪
- どの事件でも虚偽自白

他方、…

- 録音テープは、警察の新兵器（？）として登場
- 犯行再現ビデオの横行（80年代後半）

↓

かつては日弁連が可視化消極論だったことも…

8

なぜ可視化は実現してこなかった？

録音による任意性・信用性の否定事例の登場

（但し、もちろん多数の肯定判断もあり）

- 仁保事件（上告審70年、差戻広島高判72年）
- 高野山放火事件（和歌山地決94年）

↓

捜査機関側から密室擁護論

9

司法制度改革審議会の議論（20世紀～21世紀）

法務省による徹底抵抗

「他人に見られていては、真実は話せない。テープ録音をされたのでは、自白は引き出せない」

10

司法制度改革審議会の議論

01年6月：妥協的意見書

- 「被疑者の取調べ過程・状況について、取調べの都度、書面による記録を義務付ける制度を導入すべき」
- 「取調べ状況の録音、録画や弁護人の取調べへの立会いが必要だとする意見は、将来的な検討課題ととらえるべき」
- 取調べの機能論（の捉え方）

11

公式見解としての可視反対論

捜査機関は、刑事事件の真相解明を十全ならしめるため、被疑者との信頼関係を築いた上、極めて詳細な取調べを行っている実情にあり、このような実情の下で取調状況の録音・録画を義務付けた場合、取調状況のすべてが記録されることから被疑者との信頼関係を築くことが困難になるとともに、被疑者に供述をためらわせる要因となり、その結果、真相を十分解明し得なくなるおそれがある（小泉首相時代の政府見解－2003年）

12

密室取調べの弊害事例

- 宇和島事件(1999年～2000年)
- 鹿児島選挙違反事件(志布志事件)(踏み字事件)(2003年～2007年)
- 氷見事件(富山連続婦女暴行えん罪事件)(2002年～2007年)
- 足利事件(1990年～2009年・2010年)
- 厚労省元局長事件(2008年～2010年)
- 布川事件(1967年～2011年)

13

より根本的な問題＝「精密司法」？

捜査官が事件のストーリーを描く
ストーリーに沿った詳細な調書を「作文」
「作文」＝「真実」？？？

「精密」司法の実態
→「実体的真実主義」というフィクション！
(調書裁判という問題)

14

「フィクション司法」からの脱却を！

仮説固執型司法（浜田寿美男教授）

「口書」型前近代的非科学的司法

から

仮説検証型司法（浜田寿美男教授）

「近代・現代」的司法へ～科学的評価可能な司法（高木光太郎助教授）

へ

→「取調べの可視化」

（取調べの機能論の変容）

15

日本の供述調書の起源

★「口書」

■吉田松陰　留魂録（1859年筆）

■「吾が心にも非ざる迂腐（うふ）の論を書付けて口書（くちがき）とす。吾れ言ひて益なきを知る。故に敢へて云わず。不満の甚だしきなり」

16

裁判員と可視化

- 裁判員は国民の義務

↓

- そうであるならば
- 国家も国民に義務を尽くせ！

★国家の義務とは？

- 審理を行う裁判員に審理のために適正な情報を全て与えること
- 取調べの状況を正確に（一義的に）伝えること

→「取調べの可視化」

17

2010年

- 2月5日
- 中井洽国家公安委員長主宰の「捜査手法、取調べの高度化を図るための研究会」第1回会合

18

2010年

- 11月10日
- 法務大臣私的諮問機関「検察の在り方検討会議」発足（第1回）

2011年

- 3月31日
- 検察の在り方検討会議提言発表

19

2011年

- 4月8日
- 江田五月法務大臣が、笠間検事総長指示
- 特捜・検察独自捜査事件、知的障害によりコミュニケーション能力に問題がある被疑者等の取調べに全過程を含む録音・録画試行を指示

20

2011年

- 運用面～4月26日
- 最高検検察改革推進室「録音・録画の試行に関する運用要領」発表
- 制度面～5月18日
- 法務大臣法制審議会諮問
- 取調べを録音・録画（可視化）する制度の検討
- 6月29日
- 法制審議会「新時代の刑事司法制度特別部会」第1回開催

21

2011年

- 7月8日
- 最高検察庁「検察改革―その現状と今後の取組―」発表
- 特捜部における被疑者取調べ、特別刑事部の独自捜査における被疑者取調べ、及び知的障害によりコミュニケーション能力に問題がある被疑者等に対する取調べについて、全過程を含む録音・録画を試行

22

2011年

- 8月8日
- 取調べの可視化に関する法務省勉強会・検討結果(「とりまとめ」)発表
- 同時に「被疑者取調べの可視化の実現に向けて」と題するペーパーも発表

☆8月9日(裁判員裁判で試行拡大)

23

2012年

2月23日

国家公安委員会研究会・最終報告

・4月～警察試行拡大へ(裁判員)

(知的障害者～5月から)

24

資料	6

検察の再生に向けて

検察の在り方検討会議提言

【概要版】

平成２３年３月３１日

第４　検察における捜査・公判の在り方

１　検察における取調べの可視化の基本的な考え方

○　被疑者の取調べの録音・録画は，検察の運用及び法制度の整備を通じて，今後，より一層，その範囲を拡大するべきである。

２　検察の運用による取調べの可視化の拡大

○　特捜部における取調べの録音・録画の試行に当たっては，できる限り広範囲の録音・録画を行うよう努め，１年後を目途として検証を実施した上，その検証結果を公表するべきである。

○　特捜部における前記試行については，原則として，試行指針上の対象となり得る事件の全件で試行を行うとともに，最高検においては，積極的な運用が確実に行われるような方策を検討・実施するべきである。

○　特別刑事部が取り扱う独自捜査事件についても，特捜部に準じて，取調べの録音・録画を試行するべきである。

○　知的障害によりコミュニケーション能力に問題がある被疑者等に対する検察官の取調べにおいても，取調べの録音・録画を試行するべきである。この試行に当たっては，事案の性質や被疑者の特性等に応じ，例えば，取調べの全過程を含む広範囲な録音・録画を行うよう努めるなど，様々な試行を行うべきである。

３　新たな刑事司法制度の構築に向けた検討を開始する必要性

○　取調べ及び供述調書に過度に依存した捜査・公判の在り方を抜本的に見直し，制度としての取調べの可視化を含む新たな刑事司法制度を構築するため，直ちに，国民の声と関係機関を含む専門家の知見とを反映しつつ十分な検討を行う場を設け，検討を開始するべきである。